

2022年横浜ナザレン教会・昇天後主日(5/29)礼拝

「神の子の自由に解き放たれる奇蹟」

使徒言行録第4章5節から22節

### 【聖書】

使徒言行録4:5 次の日、議員、長老、律法学者たちがエルサレムに集まった。6 大祭司アンナスとカイアファとヨハネとアレクサンドロと大祭司一族が集まった。7 そして、使徒たちを真ん中に立たせて、「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか」と尋問した。8 そのとき、ペトロは聖霊に満たされて言った。「民の議員、また長老の方々、9 今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によっていやされたかということについてであるならば、10 あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。11 この方こそ、／『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、／隅の親石となった石』／です。12 ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」

13 議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。14 しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。15 そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、16 言った。「あの者たちをどうしたらよいだろう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。17 しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。」18 そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。19 しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。20 わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」21 議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。22 このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。

## 1 議員たちの姿

聖書には、私たち人間のリアルな姿が画かれている、と思います。使徒言行録、第四章に描かれている最高法院の議員たちも、その一例です。彼らは、自分達が十字架に架けて殺した主イエスが三日目に神から甦らされたこと、そうして真の救い主であることが民衆の間に広まることを懼れます。何故でしょうか。最高法院の判断が間違っていたことに民衆が

気づき、権威が失墜すること、自分達の地位が危くなり、持っている権力を手放さざるを得ない事が不安だった、と思います。怒った民衆が騒乱を起こし、ローマ軍が武力で介入することを危惧する人々もいたでしょう。人は誰しも、既に自分達が持っている特権、地位や富や力、名声などを手放すことは、難しいもの。それがどんな些細なものであったとしても、ぎゅっと握りしめて離そうとしないことが、往々にしてあります。私の中にもそんな気持ちが微塵もない、と言えは嘘になります。

又、ある説教者は言いました。「人間は誰しも、『自分は正しい』と思わないと、生きていけない」。私もその通りだと思います。自分が正しくないのではないか、と思うと、途端に不安になるし途方に暮れてしまい、前に進めなくなります。だから、自分は正しい、間違っていない、と自分に言い聞かせながら生きる、それが私たちなのだと思います。ウクライナ侵攻など戦争を仕掛ける指導者達の中に、そんな最高法院の議員たちの姿を見出せます。が、それは、権力者だけではありません。日々の生活の中での私たちの心と言葉と行いの中にも、議員たちはいます。ルカは最高法院の議員たちを通して、私たち人間そのままの姿を鋭く描いている、と言えるのではないのでしょうか。

## 2 ペトロとヨハネの姿

このように考えていきますと、ここに描かれているペトロとヨハネの方が、普通ではない事に気づかされます。彼らは、人間社会の権力も、人の目も恐れていません。のびのびと、自由に真実を語り、自由に判断しています。実際、13節に「**議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、驚いた**」とありますが、ここで「大胆な」と訳されているギリシャ語には、「自由に堂々と、誰はばかることなく」という意味があります。

ですが、ペトロとヨハネは、聖書について、神について専門の教育を受けた祭司でも学者でもありません。又、当時、人里離れた死海の周辺で活動していたエッセネ派のように、厳しい戒律を守りながら、修行生活、禁欲生活を続けていたわけでもありません。13節に「**無学な普通の人**」とある通りの人たちです。しかも二人がとびぬけて優れた人格の持ち主ではない事を私たちはよく知っています。ペトロは、十字架の恐怖で三度、完全に主イエスを否定した者です。一方のヨハネは怒りっぽい性格だったようです。エルサレムへの旅の途中に訪れたサマリヤの村の人々が主イエスを歓迎しないのを見て腹を立てます。そして、兄弟ヤコブと一緒に、次のように主に申し出て、自分達の力を誇示しようとしています。「**主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか。**」(ルカ9:54) 勿論、主イエスは振り向いて、二人を戒められた、とルカは語ります。ペトロもヨハネも、立派な人格者とは到底言えません。本当に専門教育も受けていない、長所もあれば短所もある、普通の人、私たちと同じです。

だからこそ、使徒言行録第四章に描かれる、ペトロとヨハネの言葉と行いは、まさに奇蹟です。実際に8節に「**ペトロは聖霊に満たされて言った**」とある通りです。聖霊とは御霊なる神、神が働かれて奇蹟が起こったのです。何故、ペトロとヨハネは聖霊に満たされ、奇蹟が

起こったのでしょうか。それは、二人が次の事を知っていたのではないのでしょうか。「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(12節)「イエス・キリストというお方以外に、私たちが救われる方はいない。」つまり、「イエス・キリストの十字架が全ての人の背きの罪を贖った、その事ゆえに、神はこのお方を甦らされたのだ。」という真理を聖霊によって示され、彼らがそれを受け入れ、信じたからではないか、と思います。今日の招の言葉にありますように、「真理はあなた方を自由にする」のです。

### 3 排他的なのか。

しかし、私たちが暮らす日本は、神の民の歴史を持つイスラエルとは違い、多神教の歴史の長い国です。「イエス・キリストのみ」と告白すると、「キリストだけで他はダメなんて、自由が少ない、排他的な教えだ」と受け止められがちです。皆さんも一度はそんなふうに反応された経験があるのではないのでしょうか。しかし、この指摘は真実なのでしょうか、

多くの神々を信じたほうが自由に生きられる、というのは、人間を支える真の神を信じているのではなく、人間が造り出した神々を拝む宗教だからではないだろうか、と私は思います。「神であればなんでもいい」は、「神なんてどうでもいい」こと。結局は、神々を造り出した人間を神としているのですから、奇蹟などは起きようがありません。

しかし、人間を神とすることは、キリスト者の中でも起こってきました。教会の中でも起こってきました。もう二十一年前になりますが、アメリカの同時多発テロを契機に起こった「テロとの戦い」もその一例です。一部のイスラム教徒の暴挙の犠牲になった人々をクローズアップし、キリスト教徒を絶対善、イスラム教徒を絶対悪という単純構図を描いて、敵愾心をあおり、復讐に駆り立て、西側諸国の富と力の支配に反発する人々を武力で抑え込もうとしました。しかし、それは、十字架の上で敵を赦したイエス・キリストを主として仰ぎ、主イエスの言葉に生きることでしょうか。主は、十字架の上で全ての人の為に死なれました、イスラム教徒の為に死なれました。そのような主イエスの在り方を受けとめれば、あのような戦争はできなかった筈です。ひょっとしたら、私たちキリスト者が、主イエス・キリストの救いの素晴らしさに驕り昂ぶり他者を裁いて排他的になってはならない、と気づかせるため、天の父なる御神は異なる信仰を起こされたのかもしれませんが。主なる御神が排他的なのではありません。人が排他的なのです。「十字架と復活の主イエスは、全ての人にとってキリストだ」という確信に支えられて者たちは、もつともつと自由です。

### 4 愛する自由

どのように自由なのでしょう。それは、恐れなく人を愛する、全ての障壁をこえて人を愛する、ということで自由なのです。そして、キリスト・イエスにのみとらえられ、自由に神と人と

自分を愛する世界こそ、神のご支配がいきわたる世界、神の国です。そこで私たちは、神の審きによって滅びることを怖れて怯えつつ生きる奴隷ではありません。神の国の自由な跡取り息子として、跡取り娘として、自由に大胆に生きます。神の愛が広がり、聖霊の風が吹き渡り、イエス・キリストの恵みが満たす果てなき大空に翼を広げて自由に飛び回る、それが神の子の自由です。恐れずに人を愛するキリスト・イエスの自由に生きるのです。「イエスのみがキリストだ」という点でしっかりと父なる御神に結びつけられているならば、私たちはこの上なく自由に生きることが出来るのです。

その様子は、今日の聖書のペトロとヨハネの姿にも描かれています。ペトロは、「**民の議員、また長老の方々、**」と尊敬を込めて呼びかけます。指導者達がやったこと以上のことで彼らを糾弾してもいません。審きもしません。裁くのは神のなさることだとわきまえています。彼らを。主イエスにあつて、大切な人だと思っているのです。彼らの為にも主イエスは十字架に苦しみ死んでくださった、と知っているからです。「イエスの名でかたること、まかりならぬ」と最高法院の決定を伝える議員たちに向かって言ったペトロとヨハネの言葉がそれを示しています。「**神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。**」私たちは、主イエスについてみたこと、聞いたこと、つまり、十字架に架かり殺されたお方をが永遠の命に甦らせたこと、このことを語らずにはおられない、何故なら、私たちは、このお方の証人なのだから。しかし、二人は、議員を非難することなく、「何が神の前に正しいかどうか、考えてください」と問いかけます。信仰者は、誰に従うべきでしょうか、と問いかけ、神を指し示しているのです。議員たちは、彼らをコントロールしようと、力で脅迫しますが、彼らは、議員たちを支配しようとも、コントロールしようともしません。考えてもらおうとしています。自分達を不当に捕らえて訊問する権力者に向かって、怒りも憎しみもなく、無関心でもなく、自分達の在り方を通して、神を指し示す言葉を語る、神の言葉を語っています、人が神の言葉を語っています。それは聖なる愛の奇蹟、聖霊の奇蹟です。

しかし、私たちが「十字架と復活のイエスこそ、キリスト」と言う一点に支えられて神の子の自由に生きたとしても、愛する自由に生きたとしても、私たちに悩みがなくなる、というのでは決してありません。相変わらず人間ですから、自分の思いに囚われ悩み苦しみます。時にはどうしても手放せない思いに苦しむこともあるでしょう。911の同時多発テロの話を書きましたが、そのような戦争やテロなどで大切な人を殺された人々のことを思うと、胸中が苦しくなります。しかし、それでも、復讐したくなる自分の痛みと悲しみを十字架の主イエスに託し祈り求め続ける、「主よ、我を憐れみたまえ」と祈り続ければ、必ず必ず、長い時間をかけても、神の子の自由に解放される奇蹟が起こります。辛い時、苦しい時、主なる御神に叫びつつ行けば、必ず自由な想いに解放される時が来ます。奇蹟は起こります。人間では解けない憎しみの呪縛を神が解いてくださいます。そういう例を私たちは多く知っています。

## 5 奇蹟は私たちにも起こる

だから、ペトロとヨハネに起こったこの2000年前の奇蹟は、私たちにも起こるのです。奇蹟は、滅多に起こらないから奇蹟なのではありません。奇蹟は神の出来事であるから奇蹟です。主イエスをキリストとより頼んで生きれば、奇蹟は起こるのです。しかし、ペトロやヨハネが、「自分の信仰で語ろう、自分の思いでいいこと言ってやろう」と自分達の名声や栄えを求める気持ちを起こしたとしたら、聖霊は自由な御神ですから、彼らから去って行かれたでしょうし、奇蹟は起こらなかったでしょう。これは、私たちが頻繁に経験する事です。

ペトロとヨハネは、牢獄に囚われていた前の晩、祈りに祈り、自分を明け渡して聖霊に全て委ねたのだと思います。自分達の力で行うよりも、聖霊なる御神に委ねてしまう方が遥かに自由で、遥かに正しいやり方で物事をしてくださる、と祈りのうちに分かったのだと思います。主イエス・キリストの言葉を思い出したのです。「会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。」(ルカ12:11~12) 主イエス・キリストの言葉を思い起すことは、聖霊の働きと言えます。聖霊なる御神は、十字架と復活の主イエス・キリストを思い起こさせ、より深くより大きくより高く主イエスのことを教えてくださり、私たちをつくり変えてくださるのです。そして、イエス・キリストの証人へと私たちを成長させ、変えてくださいます。

しかし、自分が何とかせねば、自分が、自分が、と心をいっぱいにしていけば、私たちは聖霊が与えてくださる、主イエス・キリストについての言葉を聞き損ねます。自分の言葉では、神の独り子イエス・キリストを証することなど、到底できるものではありません。奇蹟を自分達の力で起こせるなら、それは奇蹟ではありません。だから私たちは、主イエス・キリストを信頼して父なる御神に祈り願い、明け渡して委ねていく修練を繰り返し行うのです。生きている間続く修練、しかし、喜ばしい修練です。聖霊なる御神は私たちに言葉を与え働かれ、奇蹟を起こし、豊かな実を結ばせてくださるお方だからです。

今日の聖書にもそれは描かれています。ペトロとヨハネの言葉に答える者たちが議員たちの中にも現れたのです。二人が締め出された議場で話し合われた事柄が描かれているのがその証拠です。議員たちの中から、後にキリストを信じる群れに身を投じた人が出てきた、そしてこの時話し合われたことが教会に伝わり、数十年後のルカの時代まで語り継がれてきたからこそ、ここに記されているのでしょう。ペトロとヨハネの主にあつて人を愛する自由な態度が、一部の議員の心をとらえ、救いました。人は人を救うことはできません。人を救うのは、ただイエス・キリストのみ。

私たちの生きる世界には、人間の力ではどうしようもない現実が広がっています。ですから、私たちは奇蹟を祈ります。御父よ、御子よ、御霊よ、私たちを用いて、世界の指導者を用いて奇蹟を起こしてください。私たち一人一人が主イエス・キリストにあれば、必ず奇蹟は起こります。悩みつつも、迷いつつも、しかし、だからこそ日々祈りつつ、為すべきことをなして、神の奇蹟に希望を置いて、神がどのようにお働きになるのか、大いに期待して待ち望み

たいと思います。